## 平成17年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 提案機関名 湘南地域農業改良普及センター

6 3

記入不要

施設野菜の高所作業の省力化のための移動台車の開発 要望問題

要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等)】

施設のトマト、キュウリの栽培での仕立て方法は、誘引線による立体栽培がほとんどであ る。誘引線の高さは180m程度であり、整枝、誘引、ホルモン処理、摘果実収穫の作業のうち高所(160m以上)の作業は、コンテナやビールのプラ箱を踏み台として使用している。踏み台の移動に際しては乗り降りが必要で、踏み台移動に係る体力消耗や作業の繁雑 さが、労働生産性の低下につながっている。

そこで、乗り降りしないで、移動可能な、人力移動式作業台車の開発を臨んでいる。

県下のイチゴを除く施設野菜栽培農家数 約500戸 代表的な作型における台車の必要な時期 3~7月(半促成トマト) 9~12月(抑制トマト)

予想される省力効果(見込み) 半促成 トマト収穫時間 指標260時間 約200時間 本圃管理 指標136時間 約100時間

解決希望年限 1年以内 2~3年以内 4~5年以内 5~10年以内 研究対応区分 研究所対応 委託研究 共同研究 その他 対応を希望す 農業総合研究所 根府川試験場 三浦試験場 津久井試験場 ) る研究機関名 水産総合研究所 (内水面試験場 畜産研究所 相模湾試験場 ) 自然環境保全センター

ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名

農業総合研究所

部 署: 生產技術部

対応区分 実施 実施中 継続検討 調查指導対応(現地対応 実施済 実施不可

試験研究課題名 ( 、 、 の場合)

## 対応の内容等

トマト、キュウリ等の施設栽培において、高い位置の作業を行うための台車は他県や国等で 研究開発事例がありますので参考にして下さい。

なお、台車を現地に導入する際に必要なデータ取得(心拍数など作業性や作業姿勢)等があ ればご協力します。

## 参考文献

姫野修一・真鍋尚義・森山友幸・井手 治・鐘江義広・増永和子・末永隆次郎 . 施設園芸用 ・簡易高所作業車の開発および作業者の身体負担軽減効果.福岡農総試研報.18,63-67(1999)

· 園芸特作関係成績概要(農業機械開発改良打合せ会議資料) 生物系特定産業技術研究推進 機構

<u>解決予定年限</u> 1年以内 2~3年以内 4~5年以内 5~10年以内

備考